

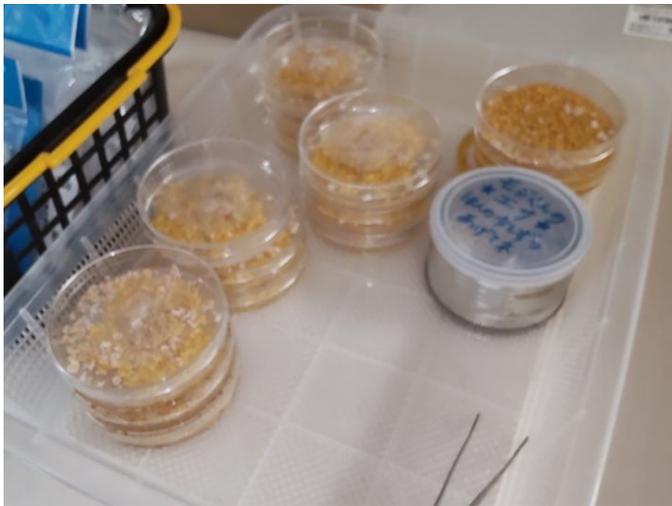
「変形菌の配布(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

モジホコリの仲間の変形体は、3年生、5年生とも子どもたちは意外にも興味を持ってくれた。「家でも自分で実験してみたい」という声が多く、感染状況によっては家庭学習になることも考え、希望者全員に配布することにした。10名前後の子どもに配布するならば簡単である。500名となると「無理だな」とあきらめもつく。200名前後(うち希望者は約150名)の子どもたちに平等に配布するのは一番難しい。



まずは最も重要な「変形体」である。夏に北軽井沢のヤマザクラの切り株で採集した変形体を、約2か月かけて、大量に培養しておいた。直径10cmほどの滅菌プラスチックシャーレが30個ほどある。



シャーレの内部はこのようになっている。この状態から数時間後に配布可能になる。



次に重要なのが持ち帰りの容器である。これは化粧品やクリームを小分けするのに使う、5mLの蓋付透明容器を用意した。



これは100個入りで1200円程度なので、1個10円強で入手可能である。変形体は短時間なら密閉できるので、変形体の配布には最適だと思う。



容器の一つを使って、培養した変形体に寒天培地ごと穴をあける。容器の底に小さな穴をあけておくと、型抜けが容易である。